

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

インドネシア共和国

トウナ地域開発プログラム(IDN-197362)



「子どもクラブ」で話し合いをするファジャルディン君(16歳)



母親と妹とともに。家ではよく手伝いをする頼もしい若者です

チャイルドストーリー

次世代のリーダーとして大きく成長したファジャルディン君

トウナ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすファジャルディン君は、高校に通いながら両親のトウモロコシ畑を手伝う、ごく普通の若者です。しかし、ADPの「子どもクラブ」が実施したリーダーシップ・トレーニングに参加し、活動を始めてから大きく変わったと言います。ファジャルディン君は仲間と話し合い、村を良くしていくための若者対象の集会を開くことにしました。しかし計画を実現するためには、役所から許可を得、必要な費用を寄付してくれるパートナーを探さなければなりません。ワールド・ビジョン(以下、WV)のスタッフは、アドバイスはしてくれましたが、実際の活動はファジャルディン君たちに任せられました。このため、ファジャルディン君はうまく話せるか不安ではあったものの、仲間とともに役所へ行って計画の説明をし、企業を回って寄付集めをしました。

「ある外資系企業に寄付のお願いに行ったときのことは忘れられません。英語しか話せない財務担当者のところに通され、とても困りました。幸い社員の方が通訳してくれ、20万ルピー(約18米ドル)の寄付をいただけました。これからは英語をもっと頑張ろうと心の中で誓いました」と語るファジャルディン君。

「活動を始めたばかりの頃は、WVのスタッフがなぜ僕たちに様々な提案や計画作りを促し、役所との交渉や寄付集めを僕たちだけでするよう言うのか分かりませんでした。しかし次第に、僕たちをリーダーとして育てようとしているのだと気づきました」と彼は言います。今では、年長者にも耳を傾けてもらえるような存在となり、村を大きく変えていきたいと考えています。

経済開発プロジェクト

支援地域内で活動するグループを通じた支援を行いました

\$ 80人の母親に
家庭菜園トレーニングを実施

トウナADPの支援地域の住民のほとんどが農業で生計を立てていますが、生産性が低く、また仲買人の言い値で販売してしまうため、利益を上げることができません。その結果、多くの家庭が日々の必要を満たすために借りた借金の返済に苦しんでいます。ADPでは、まず農民グループや母親グループなど、支援地域内で活動するグループに対して支援を行い、将来的に各世帯の収入向上につなげていくことを目指しています。

2014年度は、5つの農民グループがADPによる支援を受けました。うち2グループが地域の行政機関に登録され、種子の支給などの支援を受けることができました。次は、スナックの製造販売のトレーニングを実施する計画です。また2013年度に登録されたグループも、行政機関から種子の支給、トウモロコシの有機栽培のための資金援助などを受けることが

できました。このグループは、メンバーが自発的に地域の凸凹道を整地するための費用を集めるなど、自主性が育ってきています。その一方、ある村の実演農場で実施した農業トレーニングでは、天候不順のためトウモロコシの収穫量が2013年より大きく減少してしまいました。灌がい設備の整備が課題となっています。

また、4つの母親グループメンバー80人に家庭菜園トレーニングを実施しました。メンバーは家庭菜園で採れた野菜を販売し、売上の一部をグループとして貯蓄しています。メンバーは、子どもの教育費や食費など、必要に応じてグループの貯蓄から低利でお金を借りることができます。

2015年度は、これらの母親グループが栽培した野菜を共同で販売していく計画です。



娘の高校入学に備えて貯金を始めました。経済的に余裕ができ、以前のように仲買人に作物を買いたたかれなくなりました

貯蓄グループに参加するアシキンさん



貯蓄グループに参加してから、お金が必要な時は貯蓄グループから借りることができるようになり、以前のように高利貸しから借金をしなくて済んでいます

子どもにも貯金の大切さを教えているハニムさん

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

2014年度は、ADPの支援を受けて活動している2つの「子どもクラブ」のメンバー（13～18歳）が、より小さな子どもたち向けのイベントを開催し、217人が参加しました。



「子どもクラブ」の集会で司会を務める、リーダーシップ・トレーニング委員会の委員長、ズヘラちゃん（16歳）

以前は自信がなく恥ずかしがり屋でしたが、「子どもクラブ」に参加してから自信が付き、大勢の人の前でも話すことができました。時間の使い方についても学び、以前より自分の時間を賢く使うように気を付けるようになりました

みんなが私たちのダンスを見て、喜んでくれるのが嬉しいです。ダンスの上手さだけでなく、笑顔が人を喜ばせるのだと学びました



子どもの日のイベントでダンスを踊るヌルフイトウラちゃん（写真中央、11歳）



支援地域の女性のインタビュー

Q. 家族構成を教えてください。

夫と2人の子どもの4人家族です。

Q. 子どもの頃学校に通いましたか。

高校まで通い、卒業しました。本当は大学へ行って教師になりたいのですが、娘を遠い町へ送り出さなかつた父親が許してくれませんでした。田舎では普通のことです。

Q. ADPの活動に参加してどのような変化がありましたか。

有機野菜の栽培方法を学び、実践しています。以前は市場で野菜を買っていましたが、買う必要がなくなっただけでなく、家族が食べる分以外の野菜を売って現金収入を得られるようになりました。

Q. 今の夢を教えてください。

私は大学に行くことができませんでしたが、自分の子どもたちには大学教育を受けさせてあげたいと思っています。



有機野菜の栽培に取り組むアスマさん（42歳）

ADPスタッフ・インタビュー



Q.ADPでどのような仕事をしていますか。

経済開発プロジェクトを担当しています。地域の人々、特に女性たちに有機野菜の栽培方法を教え、収入向上を支援しています。

Q.このADPで働いていて大変だったことは何ですか。

トウナADPに赴任した時、3番目の子どもを妊娠中でした。支援地域には産婦人科医がおらず、合併症もあったため、生まれてくる子どもの命を救うために飛行機に乗ってジャワ島の都市スラバヤまで行って出産しました。この経験から、遠隔地で出産し、子育てをする支援地域の女性の大変さがわかりました。



地域の人々に野菜栽培の方法を教えるリサ スタッフ(中央)

Q.ADPで働く原動力となっているものは何ですか。

喜んで地域の人々のために働き、地域の状況に合わせて柔軟に対応する同僚の存在が、私にとっての大きな励みです。



地域の人に支援物資を渡すリサ・ヘルナワティ スタッフ(34歳)

会計報告

IDN-197362

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

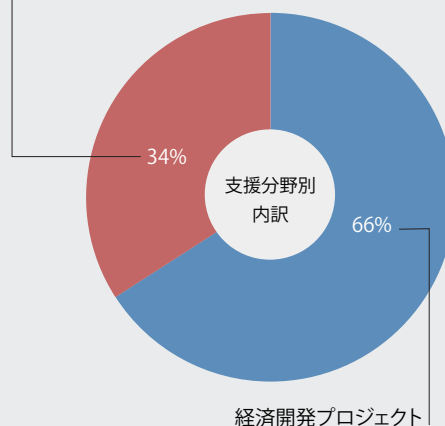
チャイルド・スポンサーシップ	13,396,209
当期支援額	13,396,209
前期繰越金	2,768,120
プログラム支援額合計	16,164,329

プログラム支出額

経済開発プロジェクト	9,931,033
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	5,138,186

プログラム支出額合計	15,069,219
次期繰越額	1,095,110

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp